

Topics

リバース型人工肩関節置換術 (Reverse Shoulder Arthroplasty: RSA)

～修復できない肩腱板断裂性関節症に対する新しい治療法～



整形外科部長
山下 武士

はじめに

肩腱板断裂は、4,50代から年齢により変性した腱板に軽微～重大な外傷が生じて起きる疾患です。40～60代までは、手術的に腱板断裂を修復すれば、時間はかかりますが6ヶ月経てば修復可能な疾患です。しかしながら、70代以降の腱板断裂については、これまで、手術しても術後再断裂（うまく修復しない）の可能性が高いため、腱板修復術はおこなわれてきませんでした。また、腱板断裂が大きく、長い経過で肩腱板断裂性関節症を呈してしまいます。腱板がなくても、肩が挙がるにはどうしたらよいだろう？と考え、リバース型人工肩関節置換術を考案したのがフランスのグラumont博士です。「リバース型」というのは「反対（逆転）の」という意味で、上腕骨頭を反対側の肩甲骨関節窩に付ければ、腱板がなくても残った三角筋の力で肩が挙がるんじゃないか？という、正に「逆転」の発想でした。

01 RSAの実用化

RSAはその後、いくつもの試作品を積み重ねて、実用化されます。
日本で認可されたのは、2014年でした。日本で初めて、治験が行われずに認可された手術器械です。治験が行われなかった代わりに、厳しい使用基準が設けられました。執刀医師は、腱板断裂手術50例、肩関節手術50例、人工肩関節手術10例の厳しい執刀基準が求められます。

02 当院でのRSA

当院では、2018年1月より、RSAを開始しております。2018年は15例でしたが、その後はコロナ禍で減少しました。2023年は23例、2024年は37例と増加し、2025年は54例とさらに増加しております。上腕骨近位端骨折に対するRSAが増加しているのも、その一因と思われます。

03 RSAに対する新しい手術法

従来、RSAは肩甲下筋腱を剥離して骨切りをおこない、最後に肩甲下筋腱を小結節に縫着して修復していました。したがって、肩甲下筋腱断裂の手術と同様で、5週間の装具固定が必要でした。最近、肩甲下筋腱を剥離せずにRSAをおこなう方法が発表され、2025年10月より当院でも開始しております。これにより、固定期間が5週間から1週間へと短縮され、入院期間も平均2か月間から、早い方では3週間程度で退院されるようになりました。

おわりに

RSAの登場により、これまで救われなかった肩の痛みが救済可能となりました。長年、肩の痛みで悩まされてきた患者さんが、笑顔で退院される姿は、この上ない喜びです。長い肩痛、挙上困難にお悩みの方がいらっしゃいましたら、当院肩関節専門外来（火・金午前）へご紹介いただければ幸いです。

当院整形外科専門外来の紹介

当院整形外科は、月・火・木・金の8:30～11:00の受付でおこなっております。

水曜日は手術日のため、急を要する症例は、お電話にてご紹介ください。

専門外来は、肩関節：火・金午前、膝関節：月・木午前、足部・足関節：月・金午前でおこなっております。

外来予約センターも是非ご利用ください。